



HPVワクチン接種勧奨再開後に 協力医療機関の新規受診患者が急増

HPVワクチンについては全国約百か所の病院が「予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関」に指定されています。もしワクチン接種後に近くの医療機関では治せないような副反応症状が続くことがあっても、ここで治療を受けてもらえば大丈夫という体制を国が整えたという建前です。

この「協力医療機関」を受診する患者さんが2022年4月の接種勧奨再開後に増えており、特に昨年（2024年）秋以降の増加ぶりが顕著であることが、厚労省の「HPVワクチンの安全性に関するフォローアップ研究」班の調査でわかってきました。研究班では全国の「協力医療機関」に依頼して、毎月、新規受診患者数を報告してもらっています。

左の図1はそのデータを筆者がグラフにしたものです。

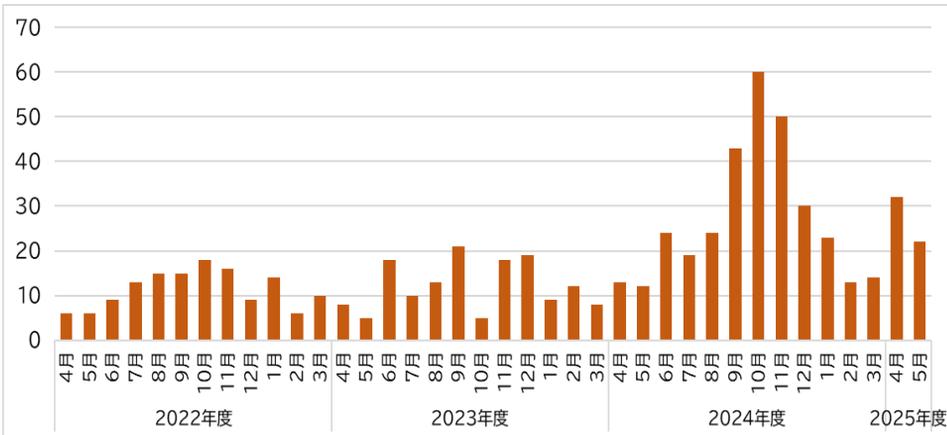


図1 勧奨再開後の協力医療機関新規受診患者数の推移(厚労省研究班による)

INDEX

- 勧奨再開後に協力医療機関の新規受診患者が急増・・・1
- 薬機法改正と当会議の存在意義・・・3
- 薬害オンブズパーソンひと言メッセージ・・・4
- タイアップ札幌総会報告・・・6
- 事務局長レター・・・7
- BOOKs お知らせ・・・8

(次ページにつづく)

これを見ると2024年秋の新規受診患者の急増ぶりが目につきます。この3年2ヶ月間の新規受診患者数の合計は実に662人の上っています。ここには、ワクチン接種後にちよつと熱が出たとか、接種部位が数日痛かったなどの患者さんは含まれていないと考えられます。



薬害オンブズパーソン
限本 邦彦

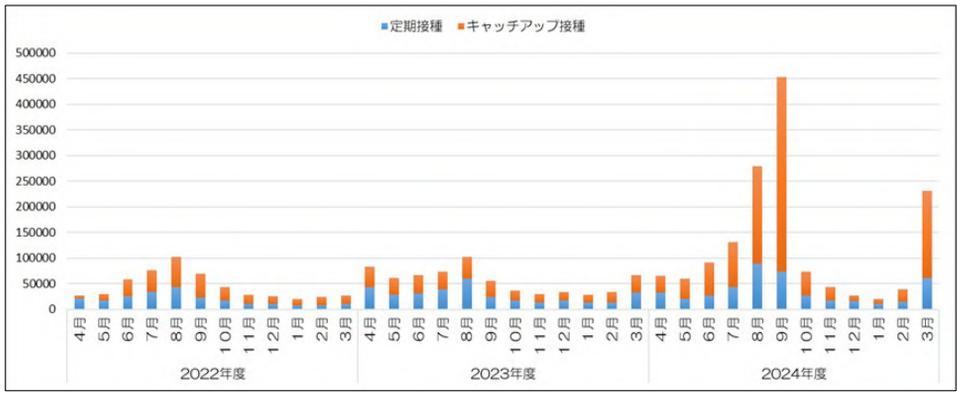


図2 HPVワクチン初回接種者数の推移(厚労省による)

というのも、そういう人が、わざわざ近医に紹介状を書いてもらって「協力医療機関」の予約をとってまで受診しているとは考えにくいからです。ではなぜ去年の秋に患者が急増したのでしょうか？

それを読み解く鍵が、図2に示す、毎月のHPVワクチン初回接種者数の推移です。

接種勧奨再開後の3年間

で少なくとも1回の接種を受けた人は、合わせて27万人余、その月別推移をみると、毎年夏休みに接種者が増える傾向があり、特に昨年8月9月頃に非常に大きなピークがあります。「無料キャッチアップ接種」の期限が半年

後に迫っているから今のうちに接種を」という製薬会社や医師会によるテレビCMがさかんに流された時期と一致しています。

図1と図2の関係を見るため、横軸をそろえて上下に並べたのが図3です。これを見ると、接種者が多かった月の1〜2か月後に決まって「協力医療機関」の受診患者が増える傾向があることがわかります。

このデータは、副反応とワクチン接種との関連を推測させるものと言えるでしょう。

過去の厚労省の公表データをさかのぼると、接種勧奨が再開される前の2019年度に「協力医療機関」を受診した患者は全国でわずか7人しかいませんでした。翌2020年度も14人、つまりこの頃の新規受診患者数は月平均で0・88人程度だったのです。

それが接種勧奨再開後には月平均で17・4人となっており、実に約20倍に増えていることがわかります。

かつて薬害スモンが起きた時、まだ原因がはっきりしない中で、当時の厚生省がキノホルム剤の販売を全面的に中止する決断をしたことがあります。するとその直後から新規のスモン患者

の発生がなくなり、それによって「事後的」にキノホルム剤と薬害スモン発生の因果関係が明らかになったという歴史があります。

厚労省はこのような薬害の歴史を踏まえ、接種勧奨が中止されていた間には極めて少なかつた「協力医療機関」の新規受診患者が接種勧奨再開後に急増しているという事実を真摯に受け止めて、しっかりとその原因究明と安全対策を実施することが求められます。

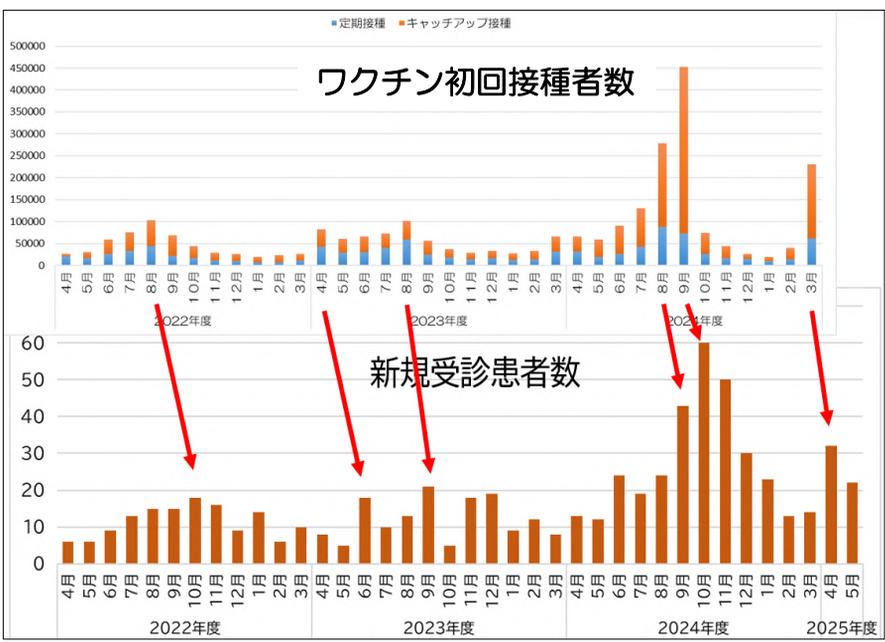


図3 HPVワクチン初回接種者数と協力医療機関新規受診患者数の比較

薬機法改正と当会議の存在意義

薬害オンラインスペース

水口 真寿美

薬機法改正法案が本年5月に可決成立した。

改正案の内容は多岐に及んだが、当会議は、医薬品の承認制度にかかわる改正に絞って意見書を提出した。

一つめは、条件付き承認制度である。これは、医薬品の安全性と有効性の検証を承認後に行うことを条件として承認を与える制度であり、重篤な疾患に関するドラッグロス、ドラッグラグ解消を目的とすると説明されている。改正前からあった制度

だが、今回の改正では「検証的臨床試験の実施が困難であるか、実施可能であっても患者数が少ないこと等により実施に相当な期間を要する」という限定をはずした。その結果米国の迅速承認制度と同様の枠組となるが、米国では適用対象の9割以上が

抗がん剤であり、この制度の下で承認された抗がん剤の多くが、5年以内に生命予後やQOLの改善を達成できていないことが問題となっている。またこの制度の下では市販前の検証が十分分であるだけに、市販後安全対策がますます重要となるが、新型コロナウイルスで収集した有害事象報告の99%以上を因果関係評価不能として棚上げしているなど、市販後安全対策が十分機能していないという問題もある。

二つめはリアルワールドデータによる承認である。具体的には薬機法の承認申請時に提出を求める資料を規定した重要な条文から「臨床試験の試験成績に関する資料」という文言を削り「厚生労働省令で定める」資料とし、省令を改正すれば臨床試

験によらずリアルワールドデータでの承認が可能とすることもできるような変更が加えられた。いずれも承認制度の根幹に関わる大きな改正だが、厚労省による、国民や国会議員への説明が全く不足していたため、当会議の意見書とロビー活動に接して初めて、問題の重大性に気づいた国会議員も少なくなかった。

そのような中でも、共産党の田村貴昭議員、倉林明子議員、立憲民主党の宮川伸議員、社民党の大橋ゆうこ議員、れいわ新選組の高井崇志議員、天畠大輔議員が、当会議の意見書を指摘

するなどして国会質問をした。また、法案については、共産、れいわが反対した。立憲民主は賛成したが、当会議の意見書の指摘の多くを取り入れた附帯決議を提案し成立法に反映された。

附帯決議に反映された当会議の意見の要点は以下のとおり。

条件付き承認について

- ・ 期限を明記し、取り消し権限を適切に行わせる
- ・ 米国の迅速承認制度についての問題点を教訓に適切な運用を図る
- ・ 患者に十分に情報提供する
- ・ 安全対策を強化し、副作用情報の因果関係評価基準を見直し、医薬品副作用被害救済制度における情報を安全対策に活かす
- ・ 副作用被害救済制度の対象となっていない抗がん剤の扱いは引き続き検討する

リアルワールドデータについて

- ・ 承認申請資料は原則として臨床試験の試験成績に関する資料であることに変わりがないことを改めて確認し、リアルワールドデータのみに基づく薬事承認は慎重にする

医薬品の早期承認のため次々と例外的な制度が導入されているが、反対意見を言い問題点を指摘する団体は乏しい。当会議の役割を改めて痛感する。今後は、運用を注視していきたい。

2025年 薬害オンフスパースン ひと言メッセージ



別府 宏圀(副代表)
医師

薬害防止は 自らの知識や技術が
不完全であることを常に意識し
患者の言葉に耳を傾け 薬の作用について
健全な懐疑心を抱き続けることから始まる



鈴木 利廣(代表)
弁護士

医薬品監視にとって重要なことは
医薬専門職のプロフェッショナリズム
及び患者・家族との専門職の
協働ではないでしょうか



水口 真寿美(事務局長)
弁護士

被害者と出会い 薬害の理不尽さと
闘いの歴史を知った者の使命として
ねばり強く活動を続けて
いきたいと思えます



隈本 邦彦(副代表)
大学教員・ジャーナリスト

元テレビ局記者で
科学ジャーナリズムに長く携わってきました
メディアの記者たちが薬害被害者の立場に立ち
歴史の検証に耐える報道をしてくれることを
期待しています



間 規子
薬剤師

薬局という現場で
薬害の教訓が活かせるよう
不器用で微力ではありますが
行動していきたいと思えます



関口 正人
弁護士

コロナ禍は 医薬品承認の制度と運用にも
大きな影響を与えました
今後の動向に注視が必要です



勝村 久司

高校教員・全国薬害被害者団体
連絡協議会副代表世話人

薬害の原因は 薬ではなく
患者の命よりも医療界の利益を重視する姿勢です
情報操作による不健全なプロモーション
産官学の専門家の癒着を監視していきましょう



田辺 保雄
弁護士

薬機法改正でリアルワールドデータのみによる
医薬品承認申請が可能となりました
形ばかり世界の潮流に合わせようという
国の姿勢に危うさを覚えます



打出 喜義
医師

どんなクスリにもリスクはある ワクチンもそう
稀にしか起こらないと言われる副反応でも
それが起これば一大事
今こそ そのベネフィットを熟考すべき時だ

2025年 薬害オンスパースン ひと言メッセージ



堀 康司
弁護士

目をつぶってしまえば
被害がなかったことになってしまう
そんな社会にならないよう
微力ながら頑張っていきたいと思えます



寺岡 章雄
研究者・薬剤師

薬害が起こることなく
そして必要な薬が患者に役立つよう
薬剤師のひとりとして強く願っています



中村 ほなみ
薬剤師

私は難病患者当事者でもあります
利益優先の医療から患者の人権を守る医療へ
「真の治療」ができる医療を求めます



三浦 五郎
病院薬剤師

薬の有効性の過大評価と
危険性の過小評価が薬害を起りやすくしています
バイアスのない良質で透明性が高い医薬品情報こそが
薬害防止に不可欠です



戸井 千紘
薬剤師

常に患者の立場で考え
医薬品の承認も含め
透明性のある医療の実現に
貢献したいと思えます



野田 邦子
薬剤師

意思決定の基準は
国民の生命・健康であってほしい
安全性・有効性はもちろんのこと
必要性にもこだわりたい



宮地 典子
薬剤師

当会議が発足して28年になります
役割を終えられるどころか
一層の奮闘が求められる今日
科学の進歩とともに 生命や人権を守る活動も
進化しなければならないということですね!



長田 三紀
情報通信消費者ネットワーク

一般的な消費者視点から
薬害と取り組んでいきたいと思えます

タイアップ札幌 第27回総会を開催

タイアップ札幌副代表

井上 昌和

2025年3月22日に第27回タイアップ札幌総会を開催しました。

記念講演会には「[全国有志医師の会](#)」の代表で、ほんべつ循環器内科クリニック理事長の藤沢明徳先生に「コロナワクチンを考えるー遺伝子『ワクチン』開発にSTOPをー」というテーマでお話いただきました。

藤沢先生はコロナワクチン被害を科学的に分析し、また論文や講演活動によって全国の運動を牽引されています。当日は土曜日の診療を終えられた直後でしたが、次の用事の合間を縫って、オンラインでの登壇となりました。

講演では2020年に設立された「[全国有志医師の会](#)」の、共同声明「私たちはヒポクラテスの誓い「自身の能力と判断に従って、患者に利すると思う治療法を選択し、害と知る治療法を決して選択しない」に従って行動します」が紹介さ

れ、その思いの強さを感じました。

「[全国有志医師の会](#)」が母体となり設立された「[一般社団法人ワクチン問題研究会](#)」では、①ワクチン接種後症候群データベース、②検査方法開発、③治療方法確立、④文献データベースの各ワーキンググループに分かれて活動し、臨床研究ではビタミンD投与の効果について今年

の秋頃には分析結果が発表されるとのことでした。

国はワクチンによる予防（感染予防、発症予防、重症化予防）について「重症化予防」を繰り返し挙げていますが、繰り返し接種することで逆にコロナ感染が広がった日本の状況を国際的な比較を用いて明らかにされました。

「[予防接種後健康被害救済制度](#)」の申請件数や承認件数などが示されて、救済制度が始まって45年間で救済認定3522件、死亡認定151件であるのに対し、新型コロナウイルスでは救済認定8988件、死亡認定994件となっており、インフルエンザワクチンとの同条件（2億回接種）の比較でも死亡数4人に対し新型コロナウイルスは738人と、18.4倍と突出しており、「人類史上最悪・最大の薬害事件である」と話されました。またコロナ禍を考えるにあたってワクチンビジネス、紅麹、超過死亡から考える視点が示されました。

（次ページに続く）



世界的に多くの論文が蓄積さ

れてその危険性が明らかに
つつありますが、日本の社会の
あり方を考えるとき、この問題
には事実の隠蔽、情報操作、虚
偽情報、偽善の蔓延などがあ
げられると強調しました。

患者の全身症状や置かれてい
る状況、社会の問題、情報の在
り方などで、HPVワクチン被
害と共通することが多く、これ
から活動を進めていくために、
多くの示唆を与えて頂きました。
記念講演後、タイアップ札幌
の総会が開かれ、リレートーク
では、HPVワクチン被害者・
ワクチントーク北海道・支える
会より、被害の状況・裁判の状
況・支援のお願いなどが話され、
無事27回目の総会を終えること
ができました。



事務局 局長レター

「医療とは何かと 疑問に思う」



事務局 局長
水口 真寿美

タイトルの言葉は、新型コ
ロナワクチン後遺症患者の会
が2025年2月にウェブサ
イトで公表した[臨時アンケート](#)
の5・2「不信を抱いた
医師の言動」に記載された3
27人の自由回答の中の言葉
です。

医療機関では、症状はいつ
から出たのかと問診されるの
は普通のことですが、新型コ
ロナワクチン接種との関係を
口にする、途端に医師から
ワクチンとは関係がないと断
言される、精神的なもの、気
のせいと言われる、立腹され
る、鼻で笑われる、診療を拒
否されるといった体験が、そ
れぞれの言葉で回答されてい
ます。それがHPVワクチン
の副反応被害者の体験と本当
によく似ていることに驚かさ
れます。

医学的に論争がある問題だ
というだけでは到底説明でき
ない回答を読むと「医療とは
何か」という根本的な問いか
けが迫ってきて、被害の被害
者が被害者であると認められ
るための闘いが薬害の歴史な
のだと改めて感じます。今年
の[薬害根絶デー](#)は8月26日
です。ウェブ参加も可能ですの
でどうぞご参加ください。
さて1997年6月に発足
した当会議の活動も28年目と
なりました。定例会議と事務
局会議、メーリングリストで
議論をして意見をまとめて公
表するスタイルは変わりませ
んが、分かりやすさを重視し
て、ブログの比重を少し増や
し、Xでの発信も行い、多く
の方に読んでいただけるよう
心がけています。
またタイアップ会員の方に
向けたオンライン例会も継続
しております。
今年は、2年に一度のメン
バー改選の年です。
新しい仲間として中村ほな
みさんが加わりました。静岡
県浜松市で薬剤師として勤務
しながら、薬害問題に関心を
寄せて活動されてきた方です。
役員は、代表、副代表、事務
局長が留任した他に、副代表
としてもう1名、隈本邦彦さ
んが加わりました。
この間、諸般の事情から、
機関紙の発行をお休みさせて
いただきましたことをお詫び
致します。ウェブ配信に切り
替えて再開致します。引き続
き、ご支援をよろしくお願
い致します。



月刊『地平』1100円（税込み）

[地平社オンラインでも購入可能](#)

民主主義のインフラとして、あらゆる権力から独立したメディアが必要だとして2024年に誕生した「地平社」。同時に創刊した月刊「地平」は、既存のメディアがしり込みするような社会問題にも果敢に切り込んでいます。

その5月号の特集の一つがワクチン問題。当会議の水口事務局長が「HPVワクチンをめぐる不都合な真実」と題して、接種勧奨再開後に副反応疑い報告が急増していることや、その情報が国民に正しく伝えられていない現実を、鋭く分析しています。また接種勧奨再開をめぐる、三原じゅん子厚労副大臣（当時）が、専門家の審議会がまだ議論を始める前に製薬会社と直接面談して水面下の交渉をしていたことや、製薬会社から、その事実を公表すると「恫喝」されていたこと等を、情報公開請求を通じて明らかにした経緯についても書かれています。

オンラインで購入もできます。ぜひ読んでみてください。

事務局だより

ずっと疑問に思っていることがある。ウイルスは日光で死ぬのだろうか？

コロナ前、海外で鳥インフルエンザ由来の新型インフルエンザが発生したと恐れられていた頃、朝のテレビ番組で、渡り鳥がウイルスを運んでこないか心配だとキャスターが尋ねた。出席していた感染症の専門家O氏は、仮に運んだとしても、その途中で日光により死滅すると言っていた。なるほどと思ったものだ。そのうちコロナの時代になりマスクを日光消毒するという話も出た。ところが新型コロナの本を読んでみたら、今度は免疫の専門家M氏が、日光でウイルスは死なないと言っていた。こんな単純なことでも専門家の意見は食い違うものなのだろうか。（田嶋）

編集後記

冊子版の機関紙最終号の発行から長らくお待ちしてしまいましたが、いよいよデジタル版機関紙を発刊することができました。

パーソンの活動をできるだけ平易かつ簡潔にご紹介する、という機関紙スタイルの利点を維持しつつ、リンクによって読者が容易に意見書や資料等にアクセスできるといったデジタル版のメリットを生かした紙面作りをしていきたいと思っています。今後ともご愛読をお願いいたします。

薬害オンブズパーソン Medwatcher Japan

発行：薬害オンブズパーソン会議

発行人：関口正人

〒160-0022

東京都新宿区1-14-4 AMビル4階

TEL 03-3350-0607

FAX 03-5363-7080

オンラインタイアップ例会 定期開催中

薬害オンブズパーソン・タイアップ会員の皆さんに向けて当会議の活動等についてお伝えする「オンライン例会」を定期的に開催しています。

これまでの開催実績と今後の開催予定は以下のようになっています。皆さんお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

- 2024年9月 MSD『恫喝』文書情報公開請求「文書は存在しない」という厚労省の説明は嘘だった
- 2024年11月 HPVワクチン接種の長期的効果に疑問符「コスタリカ研究」の解説
- 2025年1月 レカネマブについて
- 2025年3月 HPVワクチン「メディアの副反応報道のせいで勧奨中止になった」というのは嘘
- 2025年5月 MSD『恫喝』文書情報公開請求『恫喝』文書の公開で明らかとなった事実
- 2025年7月 薬機法改正をふりかえる

今後の開催予定

- 2025年9月9日（火） 19:00～19:45
- 2025年11月6日（木） 19:00～19:45

テーマは薬害オンブズパーソンの直近の活動から選びます。アドレス登録いただいているタイアップ会員の皆様には、事務局から案内メールをお送りしています。参加無料です。